

子育て最重視の市政へ

教育委員会改革とウェルビーイング教育により、学校のいじめをゼロにします。

通学路には歩道とガードレールを整備し、防犯カメラを設置します。

国の失政による少子高齢化の結果、現在、自治体政治は「若者の困い込み」の大競争時代に入っています。子育て重視の政策を打つことで若者が増えれば、若者一人当たりの負担は減り、年金世代一人当たりの福祉は向上し、市の財政はサステナブルになります。反対に、子育て重視の政策を打てなければ、若者は減り、若者一人当たりの負担は増え、年金世代一人当たりの福祉は悪化し、市の財政は悪化し、さらに若者が減る、という負のスパイラルに巻き込まれて消滅可能性都市に転落します。つまり、少子高齢化時代の市政の成否は、子育て重視の市政をどれだけ打てるかにかかっています。

白岡市は若者を惹きつけ、年金世代と責任世代の比率は1..11と全国的に好位置につけています。全国的に子育て政策で有名な明石市でも1..28です。私は小島市政を継承し、「安心して子育てできる環境の整備」を最重視して市政を展開します。まず、私が2年前から取り組んでいるいじめ問題では、いじめ再発防止体制の改善（調査側と防止側の兼職を全廃）と徹底的な意識改革（「いじめは犯罪」「被害者に100%寄り添う」）を断行した上で、学校でのウェルビーイング教育の拡充により学校のいじめをゼロにします。また、私が5年前から取り組んでいる通学路の安全では、既に実現した交差点の車止めポール整備に加えて、①すべて

の通学路に歩道を整備、②すべての通学路歩道にガードレール・ガードパイプを整備、③市のすべての側溝蓋掛けは2年で完了、④通学路に防犯カメラを設置、の4つの政策を実現します。さらに、子育て負担軽減のために給食費を無償化することは前述の通りです。大山小学校廃校への反対運動の中で「市役所は市民の皆様の」意見を聞く気がない」ことに愕然とし、市議会文教厚生常任委員長として3回の住民意見交換会を開催し、皆様の本音を叮嚀に拝聴しました。現在策定中の学校適正配置計画については、市役所からの押しつけ方式を全廃し、市民全体的話し合いによる策定へと変更します。西小学校のプレハブも、市民の皆様の請願通りに設置します。